

第135期

中間

株主通信

2012年4月1日 ~ 2012年9月30日

社長インタビュー

オープン&リンクイノベーションにより
広がる可能性

P2

トピックス

「ビクトリープロジェクト®」活動報告

P11

史上最強の「ギョーザ」

P13



取締役社長 最高経営責任者

伊藤 雅俊

株主のみなさまには、日頃よりひとかたならぬご支援を賜りまして、誠にありがとうございます。

当第2四半期連結累計期間の売上高および営業利益につきましては、以下のとおり前年同期を下回りましたが、厚生年金基金の代行返上益を特別利益として277億円計上したことにより、四半期純利益につきましては、以下のとおり前年同期を上回りました。

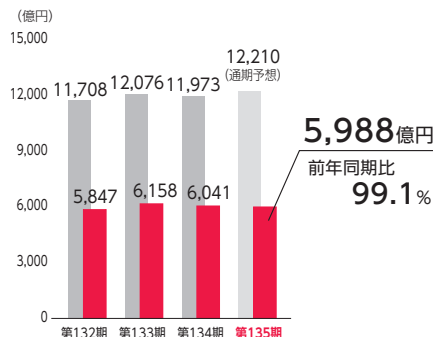
なお、当期の中間配当金につきましては、前年同期と同様、1株につき8円とさせていただきます。通期では、1株につき16円(うち期末配当金8円)を予定しております。

株主のみなさまにおかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

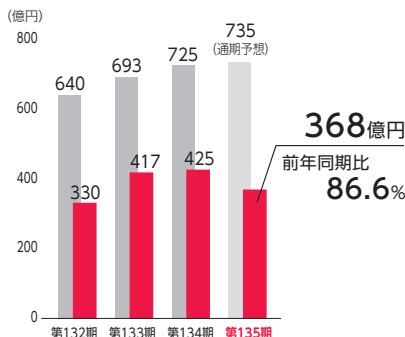
2012年12月

連結財務ハイライト ■ 第2四半期 ■ 通期

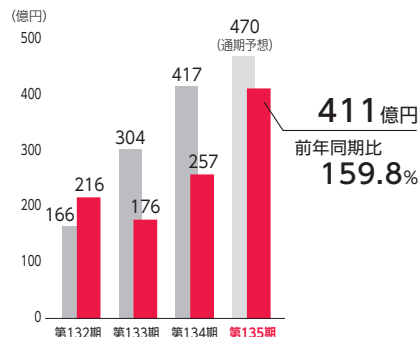
● 売上高



● 営業利益



● 四半期(当期)純利益



*予想数値は、11月5日決算発表時で入手可能な情報に基づくものであり、実際の業績は、事業環境の変動等により、予想と異なることがあります。

業績の解説については、P6 からご覧いただけます。

オープン&リンクイノベーションにより広がる可能性

Q オープン&リンクイノベーションが活発ですね。

伊藤 2011-2013中期経営計画で掲げた目標を達成し、「確かなグローバルカンパニー」となるためには、「R&Dのリーダーシップ」と「外部資源の活用」といった成長ドライバーの育成が急務です。多様化、グローバル化する社会の変化に対応するために、従来型の自社単独の研究開発体制に加えて、当社が持つ技術やアイデアに他社が持つ技術やアイデアを組み合わせる「オープン&リンクイノベーション」を推進することで、全く新しい研究成果を生み出し、製品開発に繋げ、新たな価値創造をすることが可能になると考えています。

Q オープン&リンクイノベーションの成果は、少しずつ見え始めていますね。

伊藤 現在も数多くの企業や研究機関等と積極的に取り組んでいますが、この半年間においても、前回紹介した東レ株式会社と実施している植物原料からナイロンをつくるという共同研究のほか、株式会社ブリヂストン(以下「株ブリヂストン」)や花王株式会社(以下「花王株」)と取り組みを進めています。

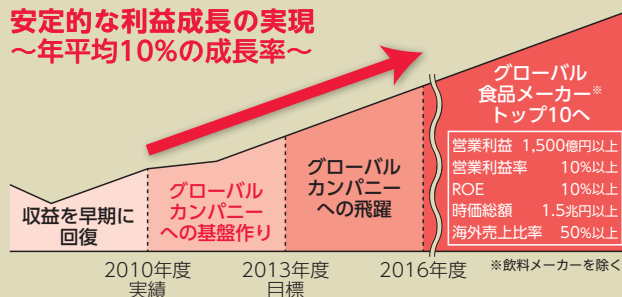
Q (株)ブリヂストンとは、どのようなことを進めているのですか。

伊藤 (株)ブリヂストンとは、バイオマス由来の合成ゴムの共同開発を行っています。再生可能な植物由来の有機資源であるバイオマスから、発酵法により当社が「発酵イソプレン」を製造し、(株)ブリヂストンがこの「発酵イソプレン」を利用して、タイヤ用合成ゴムを製

C O L U M N

● 「確かなグローバルカンパニー」に向けたロードマップ

安定的な利益成長の実現
～年平均10%の成長率～



	2010年度 実績	2013年度 目標	2016年度
ROE	5.0%	8%	10%
営業利益率	5.7%	～7%	8%
営業利益	693億円	870億円	1,000億円 + α
海外利益比率	53%	56%	—

造します。世界的な自動車需要の増加などに伴い、ゴムの需要は年々増加していますが、天然ゴムは原料に限りがあり、生産量の拡大が難しく、これを部分的に代替する合成ゴムの主な中間原材料である石油由来のイソプレンの供給にも限界があり、その供給を拡大することが課題となっています。この課題を解決するため、(株)ブリヂストンと共同で開発を行ってまいりましたが、この度試作品の製造に成功しました。今後は生産プロセスを構築し、事業化を目指します。

Q | 花王(株)とは、
どのようなことを進めているのですか。

伊藤 花王(株)とは、“メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)”や加齢に伴う足腰の骨・関節・筋肉の劣化による歩行障害等の“運動器症候群”の予防・改



● バイオマス由来の合成ゴム ～サプライチェーンと役割分担～



善を通じて、年齢に関係なくいつまでも活動的な「アクティブシニア社会」実現に貢献することを共通ビジョンに掲げ、健康ソリューションビジネスにおいて事業提携しました。

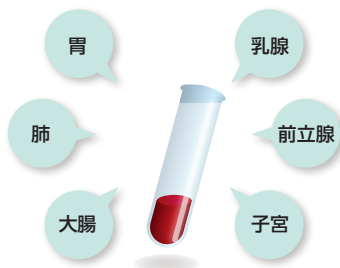
花王(株)の100%子会社であるヘルスケア・コミッティー株式会社に33.4%の出資を行い、同社が手掛ける健康保険組合等の加入者へ向けた予防プログラム「QUPiO」(クピオ)を通じて、当社の「アミノインデックス技術」(P4をご覧ください。)を活用したメタボスクリーニング情報や適切な食メニュー情報の提供などを進めています。

今後も研究開発を強化し、積極的に外部と連携して「確かなグローバルカンパニー」となるための成果を出していきます。

世界初! がんの早期発見の可能性につながる技術

aminoindex
アミノ酸解析サービス

「アミノインデックス®」がんリスクスクリーニング



+ わずかな血液採取で6種類のがんを検査

血液中に含まれるアミノ酸の濃度を分析・解析することで、健康状態や病気の可能性が分かる世界初の解析サービス「アミノインデックス®」をがん検診の支援サービスとして事業化したのが、「アミノインデックス®」がんリスクスクリーニング(以下「AICS」)です。

AICSでは、わずか5ミリリットルの血液で、胃がん、肺がん、大腸がん、前立腺がん、乳がん、子宮・卵巣がんの6種類のがんの可能性を一度に

わずか5ミリリットルの血液で

検査することができます。検査結果は、A・B・Cの3ランクで評価されます。

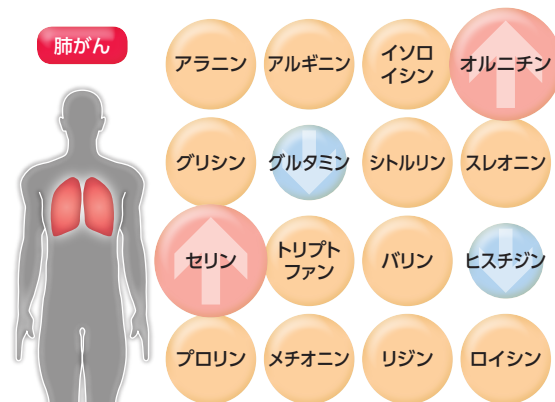
簡便な検査で、がんの早期発見につながる可能性があるAICSは、健康診断や人間ドックでの普及を目指し、受託臨床検査会社の株式会社エスアールエルとの共同事業として、サービスを開始しております。

+ 商品開発の中で発見したアミノ酸の変化

商品開発の中で、たんぱく質を食べたときの体への影響を調べるために血液を分析したところ、血液中のアミノ酸の濃度パターンが異なることを発見したことがきっかけで「アミノインデックス®」は生まれました。

人間の血液には、40種類以上のアミノ酸が含まれていますが、例えば、肺がん患者では、「セリン」、「オルニチン」の量が増加し、「グルタミン」、「ヒスチジン」の量が減少します。これは、がん細胞が体の機能を変化させるために生じる現象で、がんの種類によって増減するアミノ酸の種類に違いがあり、バランスのズレを指標化することで、各種がんのリスクを評価することができます。

● 血液中のアミノ酸濃度の変化(肺がん患者の場合)



味の素(株)の研究開発

「アミノインデックス®」の今後の展開

「アミノインデックス®」を用いたAICSは、全国213施設(2012年11月1日現在)で採用されており、今後も多くの施設で身近に利用できるように事業を拡大していきます。また、AICSによって評価できるがんの種類を増やしていくとともに、糖尿病など他の疾患への応用についても研究を進めていきます。

	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度以降
事業	事業開始 4月 健康診断支援サービス「がんリスクスクリーニング」 3月 国際戦略総合特区(神奈川県、横浜市および川崎市) ^(*) にて導入	5月 花王(株)と健康ソリューションビジネスにおいて事業提携 7月 地域活性化総合特区指定(鳥取県) ^(**) にて導入検討開始	事業基盤強化	事業拡大
研究開発	10月 婦人科がんの早期発見技術の開発(日本癌治療学会)	5月 内臓脂肪型肥満の判別可能性を確認(国際肥満研究学会)		
適応症	男性:胃、肺、大腸、前立腺 女性:胃、肺、大腸、乳腺	5月(適応拡大) 子宮頸がん 子宮体がん 卵巣がん	(適応拡大) <ul style="list-style-type: none"> リスク診断 生活習慣病、すい臓がん等 スポーツ、美容、栄養管理分野 	

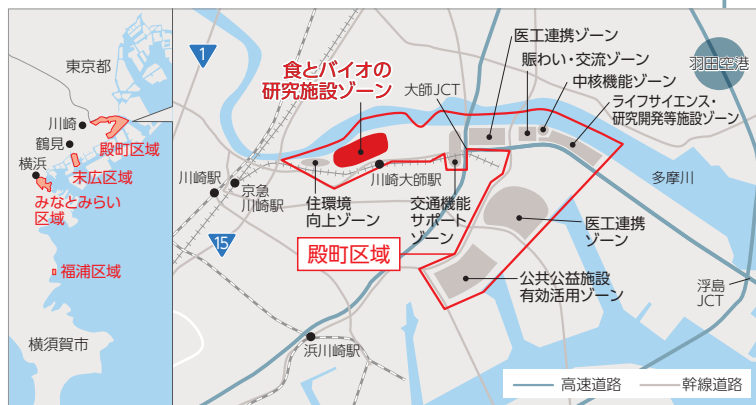
* 京浜臨海部ライフイノベーション国際戦略総合特区(神奈川県、横浜市および川崎市)

** 鳥取発次世代社会モデル創造特区(鳥取県)

●京浜臨海部ライフイノベーション国際戦略総合特区

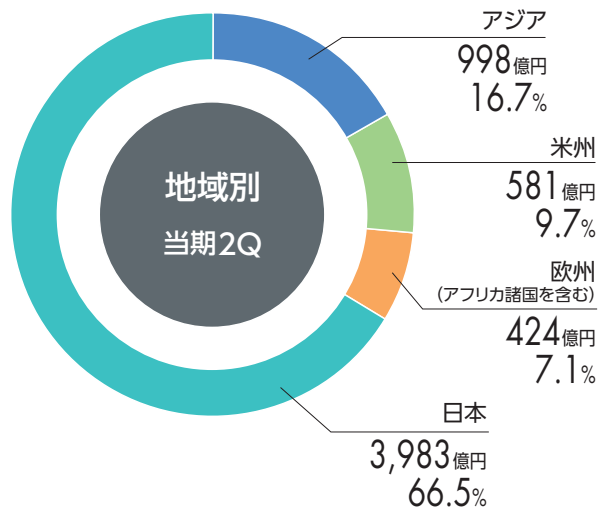
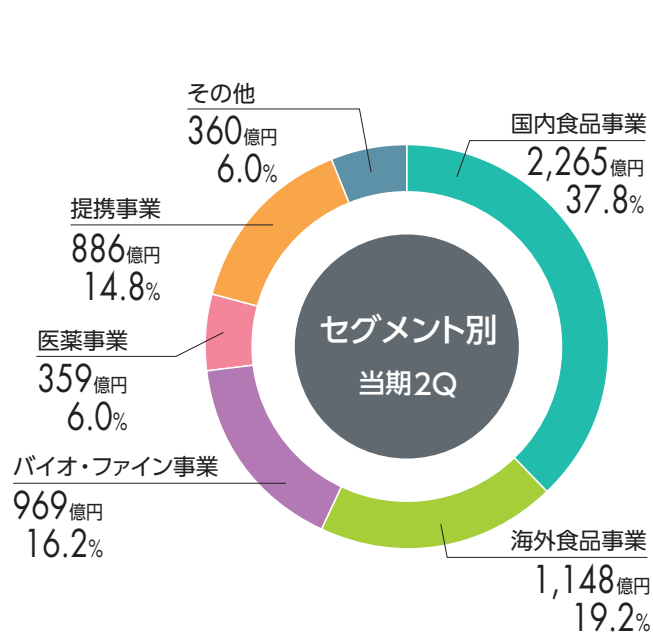
神奈川県、横浜市および川崎市は、2011年12月に国による「国際戦略総合特区」の認定を受け、京浜臨海部を舞台とする経済成長とライフイノベーションの実現に向けて、再生医療や予防医学、がん対策など将来の成長分野を育てる取り組みを推進することになり、味の素(株)が開発した「アミノインデックス技術」が、「個別化医療・予防医療」^(*)分野の取り組みの一つとして取り上げられました。

* 一人一人の遺伝子情報等に応じた適切な予防・診断・治療を行うこと、および臨床情報などの客観的な根拠に基づいて疾病の予防を図ること。



売上高および売上高構成比

*「2Q」とは、第2四半期連結累計期間を指します。



(注) 地域別売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

主要連結財務データ

*「2Q」とは、第2四半期連結累計期間を指します。

	第132期	第133期	第134期	第135期(当期)2Q
売上高	11,708 億円	12,076 億円	11,973 億円	5,988 億円
営業利益	640 億円	693 億円	725 億円	368 億円
当期・四半期純利益	166 億円	304 億円	417 億円	411 億円
1株当たり当期・四半期純利益	23.85 円	43.56 円	61.27 円	61.91 円
総資産	10,822 億円	10,774 億円	10,970 億円	10,298 億円
純資産	6,431 億円	6,502 億円	6,501 億円	6,294 億円
1株当たり純資産	863.72 円	871.61 円	894.58 円	903.73 円

国内食品事業

● 売上高 **2,265** 億円 (49億円 増) (前年同期比 102.2%) 

● 営業利益 **172** 億円 (10億円 減) (前年同期比 94.3%) 

調味料・加工食品は、中華調味料等の販売が好調であったことに加え、昨年度の震災による落ち込みからのギフト製品、加工用調味料等の回復により増収となりました。冷凍食品は、家庭用が「ギョーザ」や自然解凍でも食べられるお弁当用商品が好調に売上げを伸ばし、飲料も増収となりました。

飲料の販売費が増加したこと等により、減益となりました。



海外食品事業

● 売上高 **1,148** 億円 (1億円 減) (前年同期比 99.9%) 

● 営業利益 **102** 億円 (13億円 減) (前年同期比 88.4%) 

調味料・加工食品は、為替の影響を受けましたが、うま味調味料「味の素®」や加工食品の販売が伸長し、増収となりました。加工用うま味調味料は、食品加工業向け「味の素®」の販売数量減に加え、為替の影響により、減収となりました。

加工用うま味調味料の減収、原燃料価格の上昇および為替の影響により、減益となりました。



バイオ・ファイン事業

● 売上高 **969** 億円 (17億円 減) (前年同期比 98.3%) ↓

● 営業利益 **72** 億円 (9億円 増) (前年同期比 115.2%) ↑

飼料用アミノ酸および医薬用・食品用アミノ酸は、為替の影響を受けたものの増収となりました。甘味料、香料品、電子材料は減収となりました。

飼料用アミノ酸および医薬用・食品用アミノ酸の増収等により、増益となりました。



医薬事業

● 売上高 **359** 億円 (54億円 減) (前年同期比 86.9%) ↓

● 営業利益 **18** 億円 (36億円 減) (前年同期比 32.8%) ↓

自社販売品は、薬価改定の影響を受けたものの、胃炎・潰瘍治療剤「マーズレン®」の販売を開始したことにより、前年同期並みの売上げを確保しました。提携販売品は、ロイヤルティ収入の減少、薬価改定等により大幅な減収となりました。

販管費は減少したものの、減収の影響を受け、減益となりました。



提携事業

● 売上高 **886** 億円 (21億円 減) (前年同期比 97.6%) ↓

● 営業利益 **7** 億円 (33百万円 減) (前年同期比 95.9%) ↓

油脂は、単価の下落等により減収となり、コーヒー類も、ボトルコーヒーの販売が減少したこと等により減収となり、減益となりました。



その他

● 売上高 **360** 億円 (7億円 減) (前年同期比 97.8%) ↓

● 営業利益 **△4** 億円 (5億円 減) (前年同期比 -%) ↓

健康ケア事業が増収となったものの、エンジニアリング事業の受注減により減収となりました。

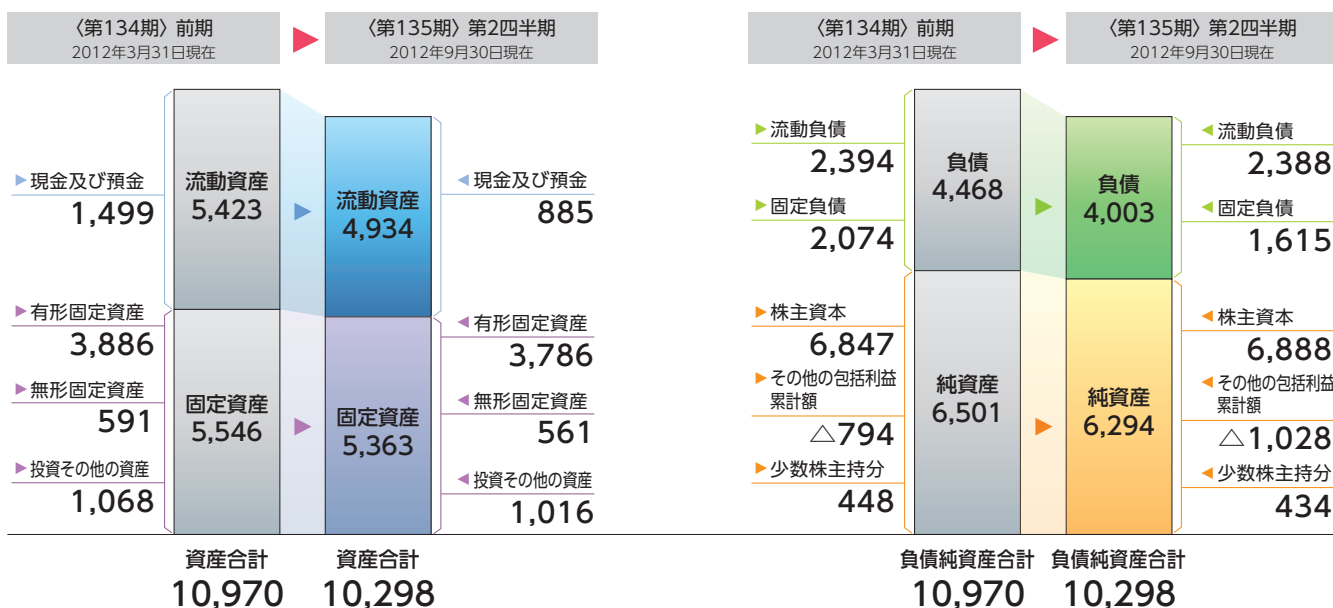
健康ケア事業の販売費が増加したこと等により、減益となりました。

連結決算概要

連結貸借対照表の概要

単位：億円

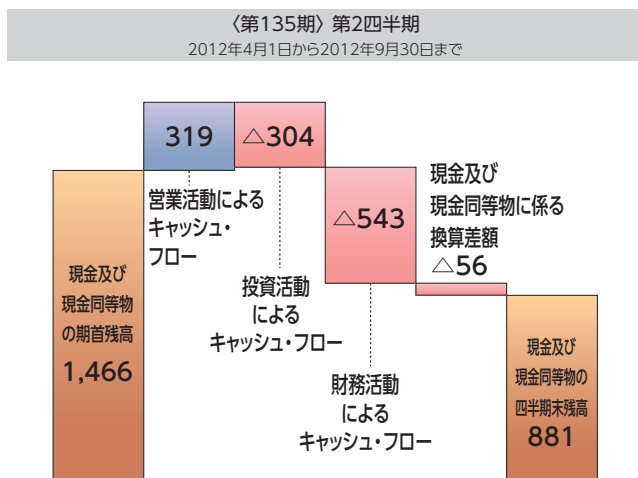
(注) △印は、マイナスを示しています。



連結キャッシュ・フロー計算書の概要

単位：億円

(注) △印は、マイナスを示しています。



● 営業活動によるキャッシュ・フロー

319億円の収入(前年同期は371億円の収入)となりました。税金等調整前四半期純利益が640億円、減価償却費が210億円であった一方、厚生年金基金代行返上益が税金等調整前四半期純利益に277億円含まれること、法人税等の支払額が113億円あったことおよびたな卸資産等の運転資本が支出となったこと等によるものです。

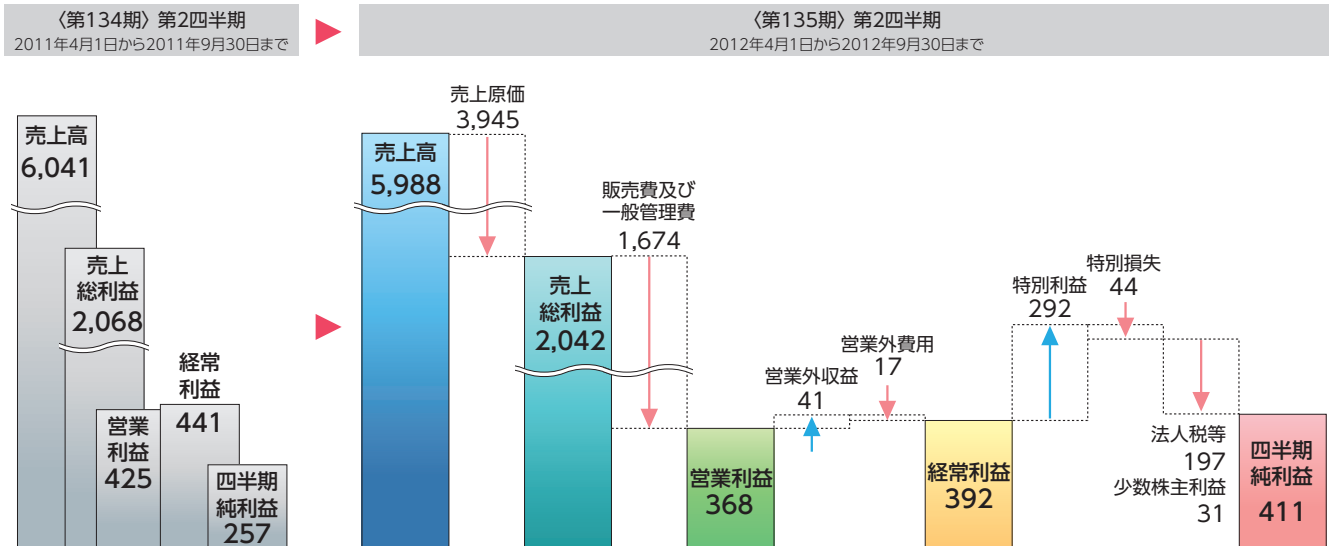
● 投資活動によるキャッシュ・フロー

有形固定資産の取得等により304億円の支出(前年同期は212億円の支出)となりました。

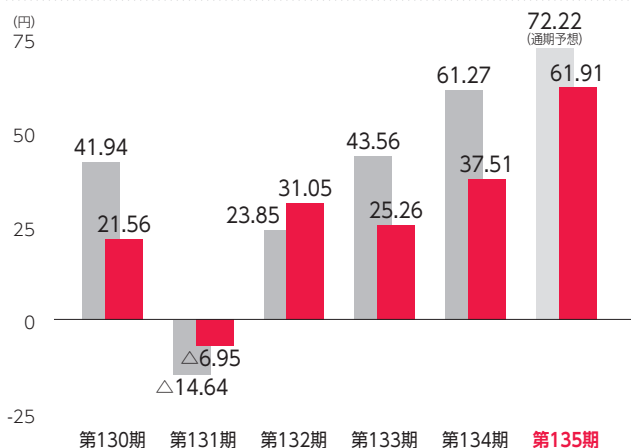
● 財務活動によるキャッシュ・フロー

自己株式の取得による支出等により543億円の支出(前年同期は301億円の支出)となりました。

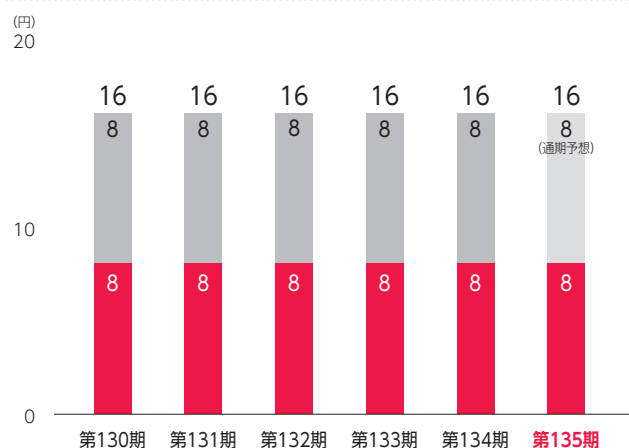
連結損益計算書の概要 単位：億円



1株当たり四半期(当期)純利益 ■ 第2四半期 ■ 通期



配当 ■ 第2四半期 ■ 通期



*予想数値は、11月5日決算発表時で入手可能な情報に基づくものであり、実際の業績は、事業環境の変動等により、予想と異なることがあります。

*第131期より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)および「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しています。

*△印は、マイナスを示しています。

ロンドンオリンピック日本代表選手団強化支援 「ビクトリープロジェクト®」活動報告



当社は、2002年に「JOCオフィシャルパートナー」契約を締結し、2003年以降、味の素kk・JOC「ビクトリープロジェクト®」として、日本代表選手のメダル獲得数増・国際競技力向上のための、食とアミノ酸によるコンディショニングをサポートしてきました。また、2009年5月から日本スポーツ界最高位の「JOCゴールドパートナー」として契約を更新し、今年の夏に開催されたロンドンオリンピックに向けて、以下の選手団強化支援策を実施してきました。

選手強化
キャンペーン

〈体操〉内村航平
(KONAMI所属)

〈競泳〉入江陵介
(イトマン東進所属)

1 「アミノバイタル®」GOLD<ロンドンスペシャル>の ロンドンオリンピック日本代表選手団への独占供給 (2012年4月～8月12日)



「アミノバイタル®」GOLD
<ロンドンスペシャル>



ロンドンオリンピック日本代表選手団強化支援 共同記者会見
(左から)伊藤社長、潮田玲子さん、内村航平選手(KONAMI所属)、JOC竹田会長

「アミノバイタル®」GOLD<ロンドンスペシャル>は、アスリートが過酷な練習やトレーニングにより、継続した運動実施に支障をきたすというアスリートの課題を解決することを目的に研究・開発された製品で、スティック1本(4.7g)に、筋肉に多く含まれるロイシンを高配合した独自組成の必須アミノ酸を4,000mg配合しています。

この「アミノバイタル®」GOLD<ロンドンスペシャル>を、24競技293人の日本代表選手団に合計10万本無償提供し、サポートを展開しました。

2 ロンドンオリンピック 日本代表選手団強化 資金提供

「1本でニッポンを強くするキャンペーン」
(2012年1月～6月)

対象期間における「アミノバイタル®」(顆粒タイプ)製品の売上げ(スティック1本あたり1円で換算)に応じた金額として、約2,000万円を強化資金として提供しました。



※キャンペーンは終了しております。

3 ロンドンでの日本代表選手団 への食と栄養サポート (2012年7月～8月12日)

約950kgの味の素グループ製品と
日本食材を現地に提供

ロンドンオリンピック期間中、現地の特設ブースにて、味の素グループ製品や日本食材を提供するとともに、選手のコンディショニングをサポートしました。



ロンドン活動拠点 特設ブース

New

「アミノバイタル®」GOLD 新発売



日本代表選手だけでなく、幅広い層のアスリートから一般の方までお使いいただけるよう、ロンドンオリンピック終了後の8月27日より製品名を「アミノバイタル®」GOLDとして全国で一般発売しました。



競泳日本代表チームメダリストの当社訪問

C O L U M N

● 「味の素ナショナルトレーニングセンター」



2009年5月に国立スポーツ施設として初のネーミングライツを導入しました。それ以降、当社は同施設内においてもオリンピック日本代表選手の国際競技力向上のため、栄養サポート活動を継続して実施しています。



史上最強*の「ギョーザ」 ～油・水なしで、パリッと焼ける～



味の素冷凍食品(株)では、主力商品の「ギョーザ」を今年の8月に大幅リニューアルしました。従来通り油なしでパリッと焼けることに加え、誰でも簡単に、油・水なしで更にパリッとジューシーに焼ける新調理法を実現しました(特許出願中)。

餃子の命は、何と言っても、パリッとした焼き目に、ジューシーな中具です。

これまでの調査によると、調理者の焼き方、特に水加減によって、出来上がりに大きな差が出てしまうということが分かりました。水の量を誤ると、出来上がりにブレが生じるため、いかにこれを克服するかという観点から、「ギョーザ」に

〈羽根の素〉をつけ、油・水なしで焼くという、新調理法を開発しました。「ギョーザ」ひとつひとつに〈羽根の素〉がついているので適度な水分で蒸し上げることができ、野菜や肉のうま味を残しつつ誰でも簡単にパリッとジューシーに仕上げることができます。



誰でも簡単にパリッと焼ける秘密は〈羽根の素〉

油なし水なしで、誰でもおいしく焼ける理由



〈羽根の素〉が溶け出し、「ギョーザ」を適度な水分で蒸し上げていきます。

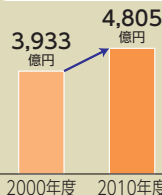
〈羽根の素〉の水分が蒸発し、「ギョーザ」底面にとどまることで、きつね色のパリッとした羽根に変わります。

*これまで家庭用冷凍食品の商品として9年連続売上No.1(2003年～2011年市販用冷凍食品売上金額ベース、味の素冷凍食品(株)調べ)であった「ギョーザ」の(調理簡便性)と(美味しさ)を更に飛躍的に向上させたリニューアル品「ギョーザ」を、史上最強の「ギョーザ」と定義しました。

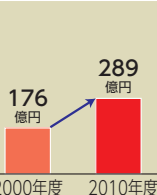
C O L U M N

- 餃子は、日本の食シーンにますます浸透しており、餃子の市場規模も冷凍餃子の市場規模も2000年度から2010年度にかけて大きく拡大しています(右グラフ参照)。そのような中、冷凍餃子が今後も市場を拡大する可能性は、まだまだ大きくあります。

餃子の市場規模



冷凍餃子の市場規模



(2011年 味の素冷凍食品(株)調べ)

会社の概要

商号	味の素株式会社
本社	〒104-8315 東京都中央区京橋一丁目15番1号
創業年月日	1909年(明治42年)5月20日
設立年月日	1925年(大正14年)12月17日
資本金	79,863,797,685円
ホームページアドレス	http://www.ajinomoto.co.jp/

株式の状況

発行可能株式総数	1,000,000,000株
発行済株式の総数	678,980,654株
単元株式数	1,000株
株主数	65,192名

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711 (フリーダイヤル)
上場証券取引所	東京証券取引所 / 大阪証券取引所
公告の方法	東京都において発行する日本経済新聞に掲載する方法による
配当支払株主確定日	3月31日(期末配当) 9月30日(中間配当)
証券コード番号	2802

株主優待のご案内

- 優待の内容
味の素グループ商品の詰め合わせセット(市価3,000円相当)
- 対象となる株主様
毎年3月31日現在の株主名簿に記録されている1,000株以上ご所有の株主様
- 発送時期
6月末~7月初旬を予定しております。
- 配送に関するお問い合わせ先
(株)味の素コミュニケーションズ
TEL 0120-271-456 (フリーダイヤル)

取締役・監査役

*1	取締役会長	山口 範 雄
*1	取締役社長 最高経営責任者	伊藤 雅 俊
*1	取締役 副社長執行役員	國本 裕
	取締役 専務執行役員	横山 敬 一
	取締役 専務執行役員	長 町 隆
	取締役 専務執行役員	岩本 保
	取締役 常務執行役員	善積 友 弥
	取締役 常務執行役員	永井 敬 祐
	取締役 常務執行役員	三宅 浩 之
	取締役 常務執行役員	富樫 洋 一 郎
	取締役 常務執行役員	大野 弘 道
	取締役 常務執行役員	五十嵐 弘 司
*2	取締役	橘・フクシマ・咲江
*2	取締役	齋藤 泰 雄
	常勤監査役	赤坂 寧
	常勤監査役	田中 静 夫
*3	監査役	佐藤 りえ子
*3	監査役	塚原 雅 人
*3	監査役	藤村 潔

*1 代表取締役

*2 社外取締役

*3 社外監査役

おいしさ、そして、いのちへ。
Eat Well, Live Well.
AJINOMOTO®



見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。



環境に配慮したFSC®認証紙と植物油インキを使用し
ています。



味の素株式会社

〒104-8315 東京都中央区京橋1-15-1
<http://www.ajinomoto.co.jp/>